

**「万博のインパクトを活かした大阪の将来に向けたビジョン」
策定に向けた有識者ヒアリング結果**

- 大阪府では、「万博のインパクトを活かした大阪の将来に向けたビジョン 有識者ワーキンググループ」を設置し、ビジョン策定に向けて、会議を全6回開催（令和元年7月～12月）し、議論を行った。
- 有識者ワーキンググループとは別に、以下の有識者（学識者、シンクタンク、民間事業者等など）にご協力いただき、各専門分野の観点から、個別ヒアリング（令和元年10月～令和2年2月）を実施。
本資料では、この個別ヒアリングの要点を取りまとめた。

【ご協力いただいた有識者一覧】（敬称略 五十音順）

- ・赤井 伸郎 大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授
- ・荒木 秀之 りそな総合研究所株式会社 主席研究員
- ・入江 啓彰 近畿大学短期大学部 准教授
- ・加藤 恵正 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
- ・木下 祐輔 一般財団法人アジア太平洋研究所 調査役兼研究員
- ・財前 英司 関西大学梅田キャンパス スタートアップ支援マネージャー
- ・神野 直彦 日本社会事業大学 学長
- ・高林 喜久生 関西学院大学経済学部 教授
- ・田口 学 株式会社日本政策投資銀行関西支店企画調査課 課長
- ・谷 隆徳 日本経済新聞編集局 編集委員
- ・玉岡 雅之 神戸大学大学院経済学研究科 教授
- ・長町 理恵子 追手門学院大学経済学部 准教授
- ・新川 達郎 同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授
- ・初谷 勇 大阪商業大学大学院地域政策学研究科 教授
- ・林 宏昭 関西大学経済学部 教授
- ・藤田 香 近畿大学総合社会学部 教授
- ・山内 幸治 NPO法人ETIC. 理事・事業統括ディレクター
- ・大和 則夫 一般財団法人森記念財団都市戦略研究所 主任研究員
- ・Xin Suzuki GONENGO LLC CEO

※その他、経済団体や企業等、民間事業者の方々からもご意見をお聞きました。

【ビジョン策定の考え方】

- ビジョンでは、ターゲット、さらにはそのターゲット層が考える大阪のイメージを把握したうえで、めざすべき将来像の足りない部分へ注力することが必要。 [シンクタンク]
- 何に重点的に取り組むのか、また、現実的な最適解を求めながらどれを打ち上げるかを考えて検討すべき。 [学識者]
- 大阪は、大都市とその近郊、周辺の農村部と、全ての要素を兼ね備えている。その望ましいあり方をうまく示して、ビジョンで共有してほしい。 [学識者]
- 万博のインパクトを活かして万博後のめざす姿を描くには、万博の位置づけを明確にして、万博のどういうインパクトを活かすのか、万博の前後に何がかわるのかを示すことが必要。そのためには、過去の万博開催都市が万博前後でどう変化したか整理すると参考になる。 [学識者]
- ビジョンの3つの柱は、「成長」→「幸福」→「世界」と循環し、また「成長」にフィードバックして発展していくイメージであり、広域自治体が描くビジョンとして理解できる。
他方、容易に成長を享受できない人びとが存在することを意識することも重要。次年度以降、基礎自治体である市町村の取組みも加えるのなら、SDGsの「誰一人取り残さない」という考えのもと、そうした地域の状況を十分踏まえたものとするべき。 [学識者]
- 万博のコンセプトにリビングラボがあることから、生活者の観点から意見をもらうことも必要ではないか。より多くの人と議論することで、その人達も自分事として真剣に考えるようになる。 [民間事業者等]
- 学生が学外に出て、社会に触れるきっかけを作っていくことが重要と考える。今回のビジョンの検討に当たっても、将来を担う若者の意見も聞くとよいのではないか。学生にとっても、その経験が自分自身の力につながる。 [学識者]
- 人類の発展に貢献するために、欠点を見つけて補うのではなく、長所を見つけて伸ばすことを大切にしてほしい。 [学識者]

【めざすべき都市像①】

- これから世界の中で残っていくためには、一定レベルの都市としての機能を保有していることに加えて、都市独自の魅力が必要。世界の中で存在感を発揮していくためには、都市機能を高めていくだけでは限界がある。 [シンクタンク]
- 20年後には、次々にイノベーションを起こし続ける都市が創造力あふれる人口の集積地として自己増殖を続けて、世界を引っ張っている、世界の可能性をどんどん生み出しているのではないか。人が集まり、都市の発展とともに自分の将来を描くことができる、自分自身の可能性を伸ばすことができる、「発展都市」というイメージを人々が持てることが重要。 [学識者]
- クリエイティブな都市を作るには、恵まれた階層に限定されず、全ての階層から新たなものが次々に生み出されていることが必要。 [学識者]
- 「るつぼ」のような都市に大阪がなれるかどうか。いろいろな産業や人が雑多に入ってくる中で、新しいものが生まれるというイメージ。人を集める力、新しいものを生み出す力をどう示すことができるかがカギ。 [学識者]
- 歴史的には、豊臣秀吉の時代に大阪・関西が最もパワーがあった。大阪・関西万博を経て、大阪・関西が再びその位置に復権するという夢を持てるとワクワクできる。 [学識者]
- 大阪・関西万博が大きな転換点となり、技術革新やSDGsの取組が進むなど、価値観が大きく変わっていく。人々が未来に夢を描ける都市、集って創造性を発揮しようと思える風土や雰囲気をつくることが重要になる。 [学識者]
- イノベーションが起こる面白いまち、若い人たちが何かチャレンジできると感じられるようなまちが、都市として魅力的。 [学識者]

【めざすべき都市像②】

- 大阪・関西には豊かな文化資源がある。こうした**文化も起爆剤として、新しいことを生み出すことができる**と考える。
[学識者]
- 地域創生と地方分権は、これからの地域経済の成長・発展を加速するうえで両輪。政府の地域創生は進化を止めているし、地方分権は曖昧・不完全なまま「隠されて」しまった。
英国のLocal Enterprise Partnershipは、日本が地域政策の舵をあらためて切るうえで重要な示唆を与えてくれる。たとえば、マンチェスターは、イギリスの分権改革の中で最初に動き出した都市であり、イギリス全体の成長にも寄与することを狙いとしている。
大阪も、都市の成長を考えるうえで、日本全体の成長に寄与するという視点が必要。 [学識者]
- SNSで何でも情報が取得できる時代なので、**大阪に行けば世界の若者の流行が全てわかる、NYのブロードウェイのように御堂筋に行けば世界中の映画がわかる**といったまちにしていけることが必要。 [学識者]

【多様性】

- 寛容度が高い大阪としては、**外国人と意識せずに接することができるなど、国際化を進めなければならない。** [学識者]
- **多様性に対応できているまちに人々は集まる。**高齢者や妊婦等にとって住みやすいまちづくりが必要。 [学識者]

【大阪・関西万博】

- 大阪・関西万博では、人が操縦できるロボットや、ロボットと生活する未来の住宅など、未来社会を体感でき、大阪ならではの面白く突き抜けたコンテンツが必要。[シンクタンク]
- 万博を5年後に控えているが、若者や子どもたちが万博にワクワクしているとは言い難い。今や未来の世界がどうなっているか見ることができるという、ワクワク感のあるものにすることが必要。後で振り返って印象に残るものでなければならない。
[学識者]
- 1970年大阪万博と同様に大阪・関西万博も子どもに見てもらうことを意識して、わかりやすい内容にするべき。[学識者]
- 訪問者データの取得を含め、万博自体が2050年、2100年に向けた「実験都市」であるべき。特に、将来を担う子どもたちが、万博で様々な経験をして、自分自身で純粋に「これは、おもしろい！」と思うことが大事。近い未来の最先端のものを見せ、こんなことまでできるようになるのかと驚く子どもたちを一人でも多く増やしてほしい。[シンクタンク]
- 住民が、大阪に住んでいて良かった、また万博が開催されて良かったと感じられることが大事であり、万博が住民にとってプラスの遺産となるようにしっかりシナリオを描いていくべき。[学識者]
- 大阪・関西万博で大阪の良い点をどう発信して、大阪の企業に成果をどのようにつなげられるかが重要になる。[学識者]
- 1970年大阪万博は、高度経済成長と文明・科学の到達点を示したが、そこから先の展望が無い万博だった。2025年の大阪・関西万博では1970年万博と異なることをするという視点が必要。[学識者]
- パリのオリンピック・パラリンピックに係る調達ルールでは、全体の25%をソーシャルセクターから調達するよう目標設定されている。この目標の達成には、ソーシャルセクター単独ではなく、中小企業などとのネットワークの構築が必要。これにより、SDGsの理念等が広く共有されていくという仕組み。大阪・関西万博に向けても、このような取組みを検討してはどうか。
[民間事業者等]

【Society5.0】

- スマートシティの取組みを進め、住民、さらにはインバウンド対応も含め、移動などの利便性が高まることは重要なこと。
[シンクタンク]
- 世界から見ると、日本が直面する高齢化に伴い発生する膨大なデータは大変魅力的に見える。関西は課題先進地域といわれるがこうした課題を逆手にとって、大阪からデータの利活用例を発信できるチャンス。データ利活用の規制緩和・強化のルールを大阪からつくっていくことが大事。 [シンクタンク]
- 海外の研究者からは「日本はデータが取りにくい」とよく言われる。夢洲に行けばデータが取れるようになるということであれば、自然と海外から研究者が集まるだろう。 [シンクタンク]
- バーチャルデータ分野ではGAFAの牙城だが、リアルデータを使ったビジネスであれば、まだ日本企業の強みを活かすこと可能。しかし、データ利活用の制度整備は進んできているものの、ビジネスに生かすまで至っていないことが課題。 [民間事業者等]
- 首都圏の方が関西よりデータ利活用が進んでいるように思えるが、実際はそうでもない。情報通信業でないとしても、「人手が足りない」、「後継ぎがない」、「職人がいない」等の課題を抱える業界ではデータ利活用への関心が高い。
[民間事業者等]
- AI時代に残る職業は何かとよく議論になるが、AIを設計・製造したり、仕事の効率化などを通じてAIを企業や社会に広く普及させたりするなど、新たに生み出される仕事もある。そこで必要となるのが、発想やワクワク感、そして何よりも社会問題解決のための「意欲」が全ての基礎になる。 [シンクタンク]

【産業振興①】

- 大阪・関西には、観光や健康医療産業の強みがあり、プレイヤーもいる。アジアとのつながりも活かし、大阪は独自に成長できるポテンシャルを持っている。 [シンクタンク]
- 大阪が1940年頃をピークとして発展が止まっているのは、繊維工業、重化学工業などから、世界全体の産業変化のトレンドを踏まえた産業転換ができなかったことが大きな要因。 [学識者]
- 大阪経済は卸売、小売で稼ぐ構造になっており、生産性が低い。医療関連産業など、万博を機に生産性が高い産業、企業が引っ張って全体の底上げをすることが重要。 [学識者]
- 人口減少を補いながら、いかに経済成長させるかが鍵。人口減少下において必要なことは、それを補うための自動化（オートメーション化・デジタル化）と人材育成をどう進めるか。 [シンクタンク]
- 大阪の強みであるインバウンドと健康医療産業に、自動化をいかにうまく組み合わせ成長させていくかが重要。 [シンクタンク]
- 地域経済を支える産業は時代とともに変化する。その意味で、何が都市経済に重要かは「市場」が決めることだ。ただ、短期的には当該地域で萌芽のある産業に政策注入することは合理的。
関西では、バイオメディカルが重要だ。裾野が広いという点は大事な視点。バイオメディカルの分野を刺激し、文化やスポーツ分野まで広げていくことで、地域内乗数効果を高めていくことができる。一方、大阪・関西は古くからの産業地域であり、その負の側面として既得権益やなれあい、硬直化した商習慣も残る。こうした事態には、都市経済の将来を展望する中で、規制緩和とペナルティをパッケージにした政策ミックスが必要。 [学識者]
- 今後、東南アジアは世界の成長の軸であり、L C Cの就航都市が東南アジアにも拡大すれば、もっと大阪に人がくる。 [シンクタンク]

【産業振興②】

- **アジアとの関係では、大阪の特徴である「バランスある産業構造」は大きな強み**である。アジア各国は発展の度合いが異なり、それに対応できるのは、産業構造のバランスだと考える。[学識者]
- 世界を見渡しても、**企業と大学が都市部に存在し、物理的に近接していることが重要**。短期的な課題解決や利潤追求を求める企業と、中長期的な物事の心理を追求する大学の二者が連携することで、短期的にも中長期的にも価値を生み出せるものができる。[学識者]
- **大学は、都市や地域の経済活性化の重要な引き金となる**。日本では、大学がその役割を十分には果たしてこなかった。米国では、Eds (Educational Facilities : 主として大学を指す) & Meds (Medical Facilities) は都市再生の切り札と位置づけられている。**今後、単なるサテライトではなく都心型大学への期待は大きい。その際、大学と企業や都市の経済を支える経済活動との連携も重要**。[学識者]

【スタートアップ】

- 大阪で活躍するスタートアップの情報が発信されれば、その人が魅力となり、大阪に人が集まってくるのではないか。
[民間事業者等]
- 歴史的に振り返ると、大阪人はチャレンジ精神が旺盛だったと思うが、今は、一定の安全が担保されていないとチャレンジしない人も多い。そうしたこともあり、スタートアップの立場からすると、「失敗できるまち」、「失敗してもチャレンジできるまち」というのは魅力的。[民間事業者等]
- 府内のスタートアップ拠点は、横のつながりが少なく、縦割りの印象。他県は一体的に取り組んでいる。関西全体を見ても、大阪、京都、神戸がそれぞれで対応している。横軸をつなぐ人材が必要。[民間事業者等]
- 大阪で様々なスタートアップ支援が行われているが、その情報が届きにくい状況。行政のバックアップのもと、一元的な支援サイトの立ちあげや賞を設けるといったインセンティブが必要。[民間事業者等]
- 大阪ではこれまでスタートアップ支援のハード面（マイドームや産創館等）が整備されてきたが、これからはソフト面の整備が必要。大阪産業局が立ち上がったので、今後期待している。[民間事業者等]
- 東京に集中しているベンチャー企業など、大阪でもできる環境にすることが大事。それには、まず資金調達がスムーズにできることが重要。[学識者]
- 東京と大阪において、それほど企業環境に大きい差はないと考えるが、他のベンチャー企業の成功例などをみると、とりあえず東京で起業という感覚になるのではないか。大阪にも元気なソーシャルベンチャーは存在している。[民間事業者等]

【観光・インバウンド】

- 今後、科学技術の進展により働く場所も選べる時代となり、**都心への集中型ではなく、分散型になることが想定**される。都心には、シェアオフィスなどが増えると思うが、観光面のウエイトが高まるのではないか。そのため、今後、都心ではホテルや空飛ぶクルマなどのモビリティ、通信環境など**観光インフラの充実が必要になる**。[シンクタンク]
- 関西には観光資源は十分あるので、受入環境を整えばリピーターも増え、**インバウンドは今後も伸びていくと思う**。大阪の場合、I Rの誘致は必要であり、カジノ以外の部分の施設を充実させ、家族での**長期滞在型の観光を生み出す**ことで、インバウンド消費はさらに増えていく。[シンクタンク]
- 観光振興に当たっては、**文化やスポーツなど地に足がついたコンテンツを活用して、インバウンド一辺倒ではなく国内需要も伸ばしていくことが必要**。[学識者]
- 東京は賑わいが面として広がっているが、大阪はスポットごとにしか賑わいが無い。**点だけではなく線や面、垂直方向だけでなく水平方向で都市の開発を進めていくべき**。[学識者]
- バイエリアに閉塞感があるが、**都心部から夢洲までの景観を整備**すれば、イメージが大きく変わる。[学識者]

【人材育成・確保】

- 企業では今後、人手が減っていくことを前提に考えており、今いる人材の高度化や高度人材の育成方法に関心。身につけた知識はすぐに陳腐化するので、最先端の技術に触れる機会が必要。また、今後若手がいなくなるので、ミドル世代をうまく使うことも必要になってくる。[民間事業者等]
- 大阪の発展を考えるに当たっては、「優秀な人材を集める産業をいかに育成するのか」ではなく、「新しい産業を生み出せる人材をいかに集めるのか」という観点が重要。[学識者]
- 就職等で大阪を離れた人をどう戻していくか、大阪や関西の誇りに思えるものを教育の中で若者に見せて引き寄せていくべき。[学識者]
- 関西を、人が一旦出ていったとしても、また戻ってきてもらえるような魅力的な地域にしておくことが重要。[学識者]
- 学生たちの多くは関西で就職したいと思っているが、どうしても東京に行ってしまう。東京に行かなくても就職できるように、関西圏が連携して雇用の場を増やすことが必要。[学識者]
- 「ヒューマン・ハブ」機能を高め、多くの人がつながれるような場、たまり場的な要素を都市の中に作っていくことが必要。[民間事業者等]
- インバウンドビジネスを展開する企業も増えており、留学生は最適な人材。受入に否定的な企業は受入の経験がないからではないか。日本人が減っていく中で、留学生が日本の企業に就職してもらえるようにならないといけない。賃金面での課題はあるが、高い技術が学べて、治安のよい日本や大阪は留学生にとって魅力的ではないか。[シンクタンク]

【環境】

○ 国では第四次環境基本計画から「安全」の確保を前提として、「低炭素」・「循環」・「自然共生」の各分野が、各主体の参加の下で、統合的に達成され、環境が地球規模から身近な地域にわたって保全される社会を持続可能な社会として、その実現に向けた議論がすすんでいる。国では低炭素・循環・生物多様性社会の実現を柱としていることから都市について考える際にも、自然共生や生物多様性に関する議論は環境面から重要な要素である。

今回のビジョンでも、「自然共生や生物多様性」と「都市としての大阪」をどのように考えるかという視点があればよいのではないか。 [学識者]

○ グリーンインフラは、アメリカでは雨水管理など都市の緑地形成がおこなわれている一方で、EUでは生物多様性保全、またカナダやOECD(Green Growth)では、低炭素を含む環境問題全般を対象としている。都市環境を考える上では、「効率的に都市を変えることで環境問題の解決につながる」とするアメリカ型グリーンインフラではなく、「**人々の暮らしが豊かになるには環境配慮した都市基盤が必要**」とするヨーロッパ型グリーンインフラの考え方がより必要であると考え。 [学識者]

○ 大阪は一級河川があり、水害対策を行ってきた歴史から、**海や河川、流域への取組みを盛り込むのは、大阪らしさがある良いことだ**と思う。 [学識者]

【その他】

- 何をしてもよいという自由さが大阪の良さであり、閉塞感が充満している今こそ重要となる。[学識者]
- このビジョンはこれからも安定した平和な時代が続くことが前提。これを達成するためには、まず、安全・平和が続くようみんなでしっかり考えて社会を支えていかなければ、世界の未来をともにつくるようにはならない。[学識者]
- 日本は国民の経済格差が拡大しており、中でも貧困は個人の「意思」を弱めてしまうところに問題がある。貧困は健康とも相関関係がある。[シンクタンク]
- ビジョンの策定に当たり、行政的に押さえるべきところを網羅的に押さえており、素晴らしい資料になっていると感じる。今の時代の大阪の地域資料としても大変貴重なものだ。[学識者]
- 検討された内容は、統計や書籍など、大阪の成り立ちや現状が詳細に分析されており、他の自治体でも例がない。大変評価できる。[民間事業者等]